



## 県婦連宮古大会 地域の連携討議 NIE活用の提案も

【宮古島】「ウチナーの心・結いの心が生きる婦人会活動」をテーマに

4日、宮古島市内で開かれた県婦人連合会（平良菊会長）の第62回婦人大会（宮古大会）では、県内各市町村の婦人会会員ら約200人が参加し、青少年の健全育成などへの関わり方を考えた写真。婦人会と、地域や青少年とのコミュニケーションを深めるため、NIE（教育に新聞を）の手法を取り入れてはどうかという提案もあった。

討議では、那覇市婦人連合会の赤嶺恵子副会長が地域の学校サポーターとして支援した問題行動のある女子中学生との関わりを発表した。

討議への指導・助言で蔵根美智子県教育庁生涯学習振興課長は市民性のある親や子どもの育成に「地域でNIEを活用してほしい」と提案。琉球新報編集局NIE推進室の座波幸代記者は新聞活用法などを紹介した。